

SHIRAKOBATO

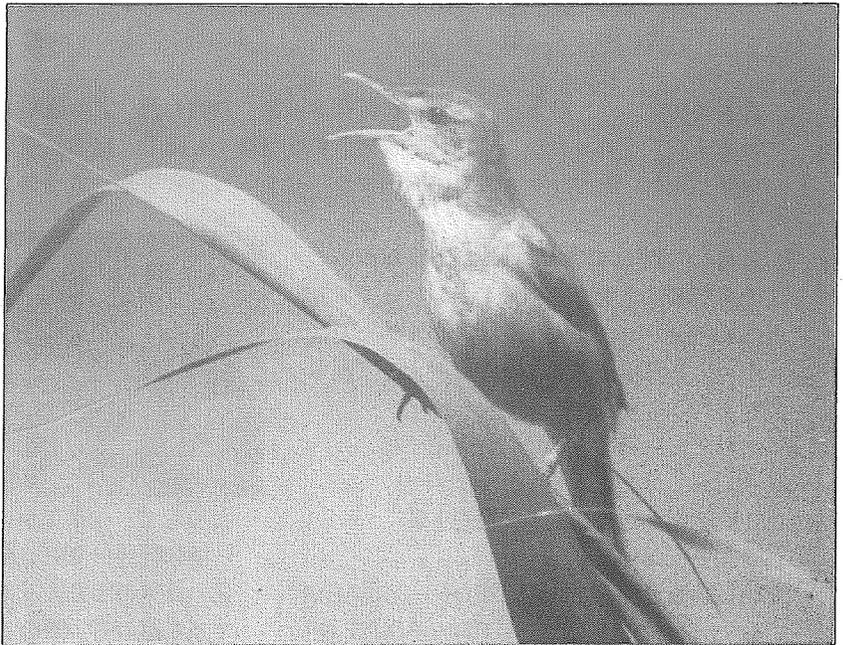
しらこぼと



1990. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



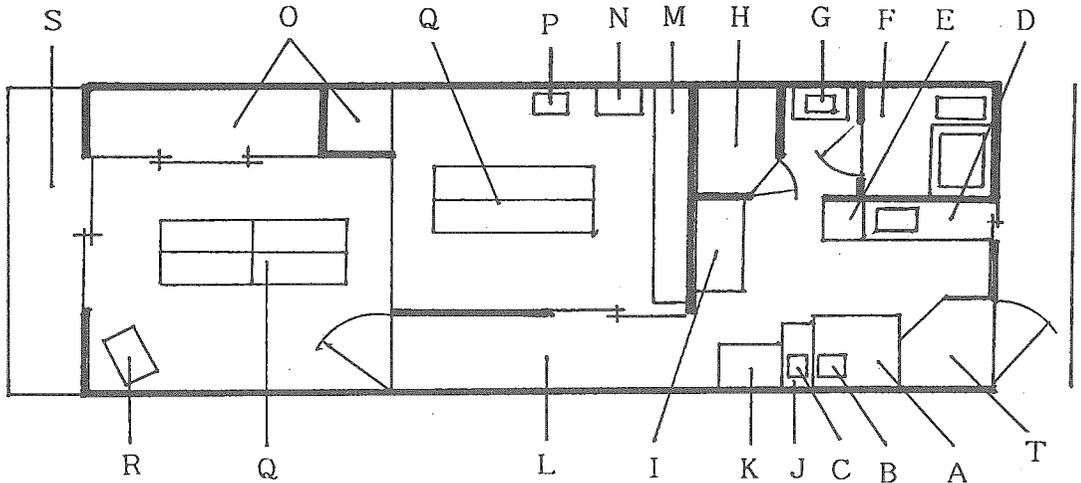
NO. 74

日本野鳥の会 埼玉県支部

事務局レポート

会費や寄付金で維持している支部事務局は、支部活動のなくてはならない拠点となっている。我々の事務局の実態をお知らせしよう。

まずは 徹底図解 これが事務局だ!!



A事務用デスク Bファックス C留守番電話 D流し台 E冷蔵庫 F風呂場 G洗面所
Hトイレ Iロッカー J書類整理棚 K複写機 L廊下 M物品棚 N他支部の支部報棚
O押し入れ Pパソコン Q座テーブル Rテレビとビデオ Sベランダ T玄関

見出しの割にはたいした内容じゃなかったとの声が聞こえそう。それも当然。ごくあたりまえのマンションの一室を、ごくあたりまえの(?)野鳥の会支部が、事務局として使っているだけなのだ。

だれでも利用できる資料類としては、

- ①『しらこぼと』のバックナンバー
 - ②1963年2月号以降の『野鳥』誌
 - ③全国の支部報
 - ④各国の野鳥図鑑(『WILDFOWL』『SEABIRDS』『SHOREBIRDS』『THE BIRDS OF CHINA』『Birds of the USSR』など)
 - ⑤その他いろいろ
- ビデオも楽しめる。

袋づめの会(写真右上)や写真クラブ定例会の様子は毎号お知らせしているとおりですが、時には研究部会議と編集会議がぶつかっ



たりして、なかなかにぎやか。

浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間に入って進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンションの1階、徒歩約5分。

オープンされているのは、毎週土曜日の午後2時から(袋づめの日は午後1時から)6時まで。

みんなの事務局です。どうぞおかけください。
(海老原美夫)

県南部ハシブトガラスの埒と埒入り飛翔コース

県立藤高等学校生物部 浅沼源太郎

はじめに

1989年秋から1990年春、県南・東部（川口、浦和、大宮、上尾、岩槻、越谷、草加、鳩ガ谷、戸田、朝霞、新座）におけるハシブトガラスの埒と埒入り飛翔コースを調査したので、ここに報告する。飛翔コースの調査方法は、埒に集まるハシブトガラス個体群を埒から半径6kmの円周上の地点で見つけ、それを3日ずつ自転車で追跡した。

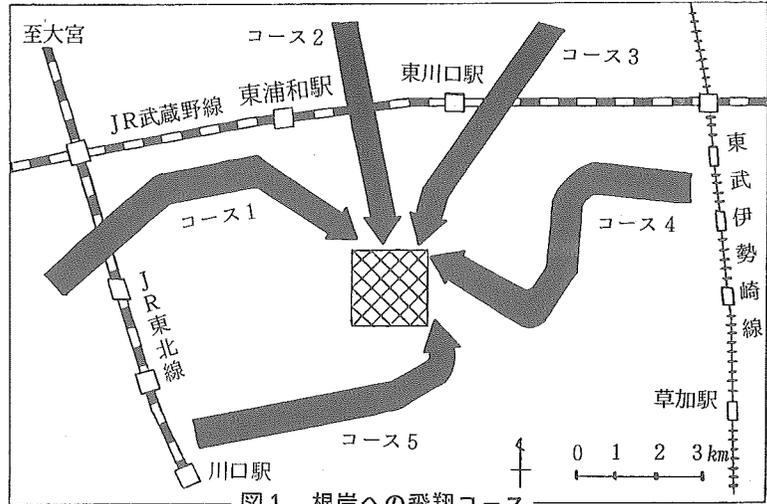


図1 根岸への飛翔コース

県南における埒の所在と飛翔コース

県南では、新座市平林寺、大宮市御蔵、川口市根岸（県立川口青陵高校生物部 1988）の3ヶ所の埒を確認した。

川口市根岸の埒への飛翔コース（図1）は、西から移動する個体ではやや北に膨らみ（コース1）、東から移動する個体は、Sの字を描く（コース4）。

とされていた。明治神宮はその可能性が強い（都市鳥研究会 1984）。本調査において、川口市根岸の東から移動してきた個体（コース4）は、緑地の多い所を選んで移動する傾向が強いと思われる。西から移動してきた個体は、送電線とカラスの飛翔コース（図2）を見ると送電線を伝わって移動している可能性がある。これを示唆するものとしてハシブトガラスが一度鉄塔に集まって移動する行動が観察された。

飛翔コースと送電線の関係

従来、ハシブトガラスの飛翔コースは、緑地の多い所を選んでコースを取る（黒田1967）

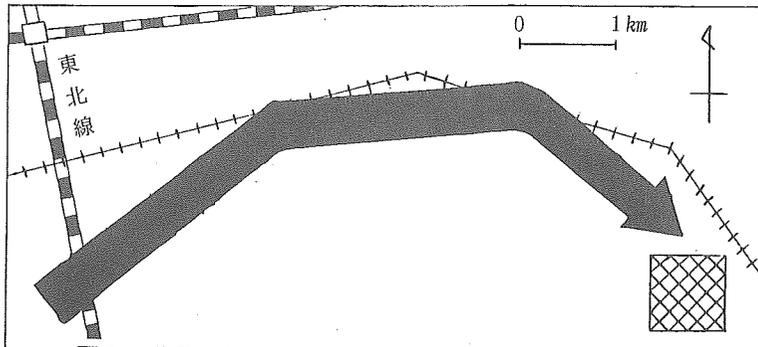


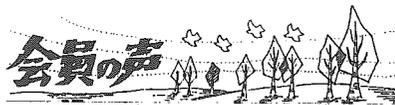
図2 送電線とカラスの飛翔コース（コース1）との関係

<参考文献>

都市鳥研究会 1988 都市に生きる野鳥の生態 58-61 文英社 東京

県立川口青陵高校生物部 1988 Nucleus 3 33-62 川口
黒田長久 1967 鳥類の研究—生態—; 52 ; 179 新思潮社 東京





「バン（??行動）」の高橋さんへ

松尾英美（世田谷区）

先日、フランスの鳥の絵本を見ていましたら、偶然、6月号の野鳥情報に載っていたバンの不思議な行動と同じ格好をしたさし絵がありました。

やはり高橋さんの観察なさったバンの行動は偶然ではないようです。

「危険をできるだけ少なくするために、バンは水に潜ります。葦にしっかりつかまって、頭しか出しません。etc…」と書いてあります。

ちなみにバンのフランス名は「水のニワトリ」です。



Au moindre danger, la poule d'eau plonge. Cramponnée aux roseaux, elle ne laisse dépasser que sa tête. Une simple mare lui convient. Elle y construit un nid flottant, attaché aux tiges aquatiques.

魅せられて石戸宿

小川寛次（北本市）

5年前のこと、初めて石戸宿を訪れた時のことです。

阿観堂北側の遊歩道をおりると、左右に開けた右斜面林の緑の竹林の上に、青空に届けとばかり咲く満開のエドヒガン桜の薄紅の美しさに、暫し、見とれておりました。

その時、上空をオオタカが悠々と飛翔しているのを見つけ、瞬間、息をのみました。初めて見たのです。感動は強烈で、今でも忘れられません。

熱い胸を押え、石戸宿を一周しました。いる、いる。小鳥の群れ、啼き声……………。

ナイショバナデス。ン十年前、許可証が

いともカンタンにもらえ、野鳥を飼った経験もあり、小鳥好きの私は、これもカンタンに石戸宿のトリのトリコになってしまいました。

今ではすっかり嵩じて月の半ばをここで過ごしております。

4年前、今では幻となったあの美しいサンコウチョウも居りました。目前で出遭ったウサギ、子連れの子ジ、ネズミをくわえたイタチとの鉢合せ。サシバの子育てもありましたが、その後、2年近くに及ぶ病院工事で様変わりしてしまいました。

でも、新しくできた池に、カワセミも定着しました。今冬、オオコノハズクを初確認。サシバ、オオタカ、クロジ、ミヤマホオジロと、徐々に戻り、賑わいをみせております。

カスミ網販売実態調査

福井恒人（浦和市）

調査期間：平成2年4月21日～28日

調査方法：①電話による聞き取り調査（電話帳で県内全域のペットショップを無作為抽出、カスミ網を売っているかどうかを問い合わせた）②店頭調査（電話帳から抽出した浦和市とその近辺の釣具店・園芸店の店頭で、販売の有無を直接調査した）

調査結果：①で調査したのは58店、そのうちカスミ網を販売していると答えたのは50店（今在庫はないが、支店や系列店にはあるからすぐ取り寄せできるとの回答も含む）、防鳥網ならあると答えたのが5店、販売していないとの回答は3店だけ。

②で調査したのは15店、カスミ網を販売していたのは4店、防鳥網という名で販売していたのは3店、販売していなかったのは8店。

前月号「連絡帳」欄での数字は途中経過であり、その後の調査を含めた結果が以上のとおりです。ペットショップでは95%もの高率となり、釣具店・園芸店でも47%もの店で販売していました。

本部職員が本年1月に本県以外の全国7県を対象に実施した電話調査では、小鳥店での在庫有りが75%、釣具店での在庫有りが9%ですから、埼玉県内は、それらを大幅に上回

っているわけです。調査者である私がいかに
も密猟者然としているから調査されるほうが
安心し、その結果このような高率となったと
いうけしからん人もいます。そんなはずはな
いのですが、もしそうだとすれば、この数字
のほうがより事実に近いといえます。

店頭で「カスミ網あり」との看板を出して
いる店もあります。現行法ではカスミ網の使
用は違法でも、販売と購入は違法ではないと
いう不自然な状態になっています。しかし、
カスミ網を買っている人がただカスミ網を集
めてよるこんでいるのではなく、使用するた
めに買っていることは明らかです。

県鳥獣保護員として、カスミ網による密猟
防止に力を尽くしていきますが、法律を改正
してカスミ網の一般販売を禁止しなければ、
密猟はなくなりません。全国の鳥仲間と力を
合わせ、1日でも早く、法律改正を実現しよ
うではありませんか。

シジュウカラの子育て (その2)

三田長久 (狭山市)

昨年に引き続いて我が家の巣箱に入ったシ
ジュウカラの子育ての様子をお伝えします。

4月8日、今年もシジュウカラが巣箱に出
入りを始めた。16時から17時の間に7回♀の
みが巣材を運び込んだ。♀が巣箱に入ってい
る間に♂は近くの木でツツピーとなわばり防
衛をする。♀が巣材を運び込んだときは巣箱
内での滞在時間は約1分であった。この後♀
は17時20分から30分の間巣箱に入っていた。
巣箱から出るとき♀の腹の羽が抜けて赤くな
っていることに気がついた。これが抱卵斑と
いうものであろうか。これらのことから、す
でに抱卵を開始しているものと思った。

4月14、15日、♀が巣箱に入るとなかなか
出てこない。滞在時間は10~20分である。抱
卵していると思われる。♂は近くでさえず
ついているだけで、巣箱に入るのは見なかった。

4月29日、♂と♀で餌運びをしている。す
でにヒナが孵ったのは確実である。

5月4日、13時半~16時半の間餌運びの様
子を観察した。この間、♂は18回、♀は14回
餌を運び込んだ。巣箱での平均滞在時間は♂

♀ともに15秒であり差がなかった。巣作りは
♀のみが行っていたので、餌運び時の滞在時
間も♀の方が長いであろうと思っていたのだ
が、予想は外れた。

5月6日、餌運びをしていた。

5月12日、巣箱は空であった。

三宅島へ行ったため大事な時期の観察を逃
してしまった。また巣立ちを見ることもでき
なかった。来年こそきちんと観察しようっと。

みんな見た!! 聞いた!!

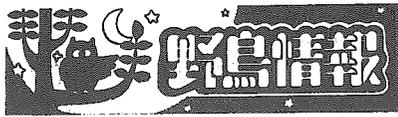
アカショウビン?!

浜田和子 (上福岡市)

行って来ました戸隠飯綱高原探鳥会。総勢
35名。さて今回の呼物は「もしかしてアカシ
ョウビン?」というサブタイトル付き。2日
目の早朝3時半に何と全員が中社に集合し目
と耳を凝らす事約30分。聞こえましたあの声、
キョロロ、キョロロと二声。リーダー達の嬉
しそうな顔が走る走る、皆も走る、その迅さ
といったら!!感動の波は二度起った。一度目
は殆んど声のみで去られてしまったが中社の
右手の森で又鳴いて呼んでくれたのだ。

その時私は神社側から見なるべく全神経を集
中したが声が止んだ。バスに戻るとどの顔も
満足しきった表情でもう何時死んでもよいと
言う人も。逢いたくて5年も通っている人も
いるというのに新入りの私にも声を聞かせて
くれたアカショウビンや郭公その他の小鳥た
ちに何と言ってお礼を言いましょう?そして
リーダー達の名リーゼン^{ダク}振りに感謝の花束を
捧げます。朱鳥見し昂り続く夏の旅 和子





カンムリカツブリ ◇4月29日午後5時頃、本庄市の阪東大橋下流で1羽。夏羽が風にゆれて、かわいかった(町田好一郎)。

ササゴイ ◇5月4日、浦和市三室の芝川で1羽(小谷野勝栄)。

チュウサギ ◇4月29日、本庄市の阪東大橋下流の入江の草原で1羽(町田好一郎)。

オシドリ ◇4月13日、花園町武蔵野上郷で♂♀各1羽(小淵健二)。

シマアジ ◇4月14日、戸田市道満の貯水池で♂♀各1羽(高橋達也)。◇4月28日、本庄市の阪東大橋下流でコガモ群れ中に♂1羽(井上幹男)。

ヨシガモ ◇4月28日、深谷市の上武大橋下流で♂♀各1羽(井上幹男)。

オカヨシガモ ◇4月2日、戸田市道満の貯水池で♂9羽♀11羽(高橋達也)。

ミサゴ ◇4月22日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。残留組のカモ達をおどろかしていた(町田好一郎)。

オオタカ ◇4月10日、川本町の明戸堰で幼鳥1羽(市川計彦)。

ハイタカ ◇4月13日、花園町武蔵野上郷で♀1羽(小淵健二)。

ノスリ ◇4月13日、花園町武蔵野上郷で1羽(小淵健二)。

サシバ ◇4月12日午前10時30分頃、鴻巣市緑町で1羽。かなり低空を飛ぶ(榎本みち子)。

コチョウゲンボウ ◇4月3日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

チョウゲンボウ ◇4月19日、幸手市木立付近の中川で1羽(秋間利夫)。

ムナグロ ◇4月9日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。◇4月12日、幸手市木立の中川で1羽。水浴びをしていました(秋間利夫)。◇4月26日、浦和市の秋ヶ瀬公園の東京農大グラウンドの芝生で約40羽。すっかり夏羽でした(渡辺喜八郎)。◇4月26日、浦和市秋ヶ瀬の鴨川排水機場で8羽(渡辺喜八郎)。

タゲリ ◇4月11日、鴻巣市大間1丁目の我家の前の草地で1羽(榎本登志枝)。

オジロトウネン ◇4月12日、戸田市道満の干潟で1羽(高橋達也)。

エリマキシギ ◇4月6日、戸田市道満の干潟で1羽(高橋達也)。

アオアシシギ ◇4月6日、戸田市道満の干潟で2羽(高橋達也)。◇4月22日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(町田好一郎)。

キアシシギ ◇5月3日、寄居町の正喜橋下で5羽(小淵健二)。

チュウシャクシギ ◇4月23日、戸田市道満で2羽。水たまりで休息中(高橋達也)。

ジシギ S.P. ◇4月19日、幸手市木立の中川の土堤そばの雑草のある田圃で15羽(秋間利夫)。◇4月24日、本庄市の阪東大橋下流の草地で1羽(井上幹男)。◇4月28日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷のグラウンドから1羽飛び立つ(高橋達也)。

ツバメチドリ ◇4月19日、本庄市の阪東大橋下流でアマツバメ群れ中に1羽。4月28日、同所で2羽(井上幹男)。◇4月28日、深谷市の上武大橋下流でコアジサシのコロニーで4羽(井上幹男)。

ウミネコ ◇4月28日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

カモメ? ◇4月15日、戸田市道満で1羽(登坂久雄)。◇4月19日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

ユリカモメ ◇4月15日、戸田市道満で100羽以上。全て夏羽(登坂久雄)。◇4月17日、深谷市の上武大橋下流で夏羽4羽(井上幹男)。◇4月19日、幸手市木立の中川で4羽。3羽が夏羽(秋間利夫)。

シラコバト ◇4月12日、深谷市の上武大橋下流のちょっとした林で1羽。この辺では初確認(井上幹男)。

ツツドリ ◇5月2日、寄居町の鐘撞堂山北側で1羽(田口浩司)。◇5月3日、寄居町用土谷津で1羽(小淵健二)。◇5月3日、児玉町間瀬湖周辺で2羽(独協大学生物研究会)。

コミミズク ◇4月18日、戸田市道満で1羽。かなり上空まで上昇して、荒川下流方面へ

飛び去る（高橋達也）。
アオバズク ◇4月22日午後9時頃、熊谷市の高城神社で雨の中、鳴いていた（鈴木忠雄）。◇4月28日、越谷市桜井地区で1羽（山部直喜）。
フクロウ ◇4月22日、越生町で1羽。雨の降る薄暗い杉林の中を音もなく飛び去った（海老原美夫）。
アオゲラ ◇5月2日、入間市高倉で1週間くらい前から杉の木で営巢中（鈴木裕二）。◇5月5日、寄居町用土谷津で1羽（小淵健二）。
ノビタキ ◇4月9日、妻沼町の刀水橋上流で夏羽1羽。垂直に舞い上り、虫をフライングキャッチ（市川計彦）。◇4月9日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽。さかんに空中の虫をフライングキャッチする（井上幹男）。
クロツグミ ◇4月17日、秩父市の羊山公園キャノン電子寮のわきでさえずる（山岸昭治）。◇4月22日、越生町麦原地区でさえずる（海老原美夫）。
ツグミ ◇4月3日、深谷市の上武大橋上流のグラウンドに60羽。4月12日、同所で60羽。4月17日にも同所で80羽（井上幹男）。◇4月14日、鴻巣市大間1丁目まで隣家のアンテナにとまり、オオルリに似た声でさえずる（榎本秀和）。
オオヨシキリ ◇4月23日、戸田市道満で1羽（高橋達也）。◇4月24日、深谷市の上武大橋下流で1羽（井上幹男）。◇4月28日、本庄市の阪東大橋下流で1羽（町田好一郎）。
センダイムシクイ ◇4月28日、深谷市の上武大橋下流で1羽さえずる（井上幹男）。◇5月3日、児玉町間瀬湖周辺で多数さえ

ずる（独協大学生物研究会）。
エゾムシクイ ◇5月2日、寄居町鐘撞堂山で1羽（田口浩司）。
キビタキ ◇4月26日、秩父市の羊山公園、キャノン電子寮の近くで1羽（山岸昭治）。◇5月2日、寄居町の鐘撞堂山で2羽（田口浩司）。◇5月3日、花園町武蔵野上郷で1羽（小淵健二）。◇5月3日、児玉町の間瀬湖周辺で4羽（独協大学生物研究会）。◇5月5日、寄居町用土谷津で2羽（小淵健二）。
オオルリ ◇4月26日、秩父市の羊山公園、キャノン電子寮の近くで2羽。声と姿にうっとり（山岸昭治）。◇5月3日、花園町武蔵野上郷で♂1羽（小淵健二）。◇5月3日、児玉町の間瀬湖周辺で1羽（独協大学生物研究会）。
エナガ ◇5月3日、花園町武蔵野上郷で2羽（小淵健二）。
ミヤマホオジロ ◇4月28日、深谷市の上武大橋下流で♂1羽（井上幹男）。
アオジ ◇4月27日、熊谷市大麻生の野鳥の森でさえずる（小淵健二）。
ベニマシコ ◇4月9日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽（井上幹男）。
コムクドリ ◇4月24日、深谷市の上武大橋下流で7羽（井上幹男）。
シメ ◇4月27日、熊谷市大麻生の野鳥の森で1羽。コナラの新芽を食べていた（小淵健二）。
カケス（渡り） ◇4月20日午前9時20分、本庄市の阪東大橋下流で南から北へ11羽渡る（町田好一郎）。◇4月24日午前7時30分～9時30分、深谷市の上武大橋下流で、群馬県側に84羽渡る（井上幹男）。

表紙の写真

1990 バードフォトコンテスト入選作

オオヨシキリ（ヒタキ科ウグイス亜科）

つゆ空の晴れ間のひととき、テリトリーでちからいっぱいさえずっているオオヨシキリ。この近くにはかわいい家族がいることだろう。人間社会と相通ずるものがあるように感じる。
 撮影年月 = 1989年6月 場所 = 浦和市見沼

田んぼ国昌寺付近 カメラ = ニコン F 3、M D 4 付 レンズ = ニッコール ED 400 mm F 4 S 絞り = F 5.6 シャッター = 250分の1秒 フィルム = フジクローム RDP 100D
 （鈴木秀男・大宮市）

行事あんない



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般=100円、会員及び中学生以下=50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発!

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：7月7日(土)

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：川越線大宮7:53発→川越8:17着、
東武東上線乗り換え8:25発急行→坂戸8:40着、越生線乗り換え、8:47発→川角8:57着

解散：午後2時ごろ

担当：中島康夫、長谷部謙二、石井幸男、宮内武昭

見どころ：夏の清流と水辺の鳥。川面を渡る風に涼を求めながら、野鳥の姿を探しましょう。あなたのお目当てはカワセミ?、それともヤマセミ?



(榎本秀和)

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月8日(日)

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:00発→大麻生9:10着 / 秩父鉄道寄居8:52発→大麻生9:10着

解散：午後1時ごろ

担当：諏訪隆久、林滋、町田好一郎、小淵健二、逸見嶮、関口善孝、高橋夕香子、田口浩司、宮坂亨

見どころ：鳥たちの魚捕り、じっくり観察。ササゴイ、カワセミ、コアジサシなど、名フィッシャーが妙技を披露。いちばんたくさん捕れるの、誰かな?



(榎本みち子)

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月15日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：やんちゃ坊主がこんには。今年生まれた新しい生命は、もう自らの翼で独り立ち…。親鳥たちが無我夢中で過ごした季節もそろそろ終わろうとしています。

狭山市・入間川探鳥会

期日：7月22日（日）

集合：午前9時10分、西武新宿線狭山市駅西口

交通：川越線大宮8：14発→川越8：33着、
そのあと本川越駅（川越駅西口出て徒歩15分）より西武新宿線8：56発→狭山市駅9：06着

解散：稲荷山公園にて正午ごろ

担当：福井恒人、三田長久

見どころ：初めての探鳥地。今ひとつ手薄の感のあった県南西部で、新しい探鳥会が始まります。入間川の野鳥が、皆さんとの出会いを楽しみにしていますよ。暑さに負けずに歩け、歩け！

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月28日（土）午後1時～3時ごろ

会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間を歩いて進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンション1階＝徒歩5分）

案内：暑くたって何だって、一度参加すると次も参加したくなるのが袋づめ。事務局にエアコンはないけど、冷蔵庫ならありますよ。

野鳥写真クラブ定例会

とき：7月28日（土）午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：真っ昼間からカーテンしめきってスライドを見る。これぞ夏まけ防止の逆療法？ でも、なるべく涼しそうな作品をお持ちくださいね。

8月12日（日）熊谷市・大麻生探鳥会

19日（日）浦和市・三室地区探鳥会

25日（土）『しらこぼと』袋づめの会
野鳥写真クラブ定例会

26日（日）千葉県・谷津干潟探鳥会
嵐山町・菅谷館跡探鳥会

9月2日（日）リーダー研修会

8日（土）神奈川県・多摩川河口探鳥会

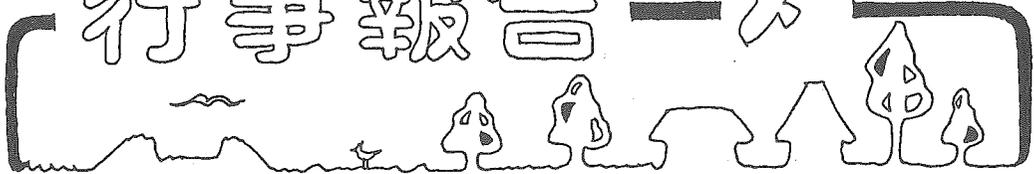
9日（日）熊谷市・大麻生探鳥会

15日（祝）シギ・チドリ類調査

16日（日）浦和市・三室地区探鳥会



行事報告



2月12日(休) 所沢市 狭山湖

人 33人 天気 晴 鳥 カイツブリ カンムリカイツブリ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ トビ オオタカ ノスリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 幸い風も弱く、探鳥日和になった。お目当てのカンムリカイツブリが見られたし、種数は少なかったが満足できた。

4月1日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

人 26人 天気 晴 鳥 カワウ コサギ カルガモ コガモ ノスリ キジ コチドリ ムナグロ タゲリ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 大久保の農耕地では、タゲリが間近に見られたほか、ムナグロ、コチドリも登場。毎年みんなの熱い期待を集めるレンジャク、今年はどうも来ていないらしい。あのレンジャクたち、実は秋ヶ瀬のリーダーFさん(今回不参加)目当ての追っかけ軍団だったのでは? Fさん、来年は是非参加を!

4月8日(日) 熊谷市 大麻生

人 42人 天気 曇後雨 鳥 カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ コジュケイ イカルチドリ ムナグロ ハマシギ イソシギ コアジサシ キジバト アマツバメ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキ

レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ イカル シメ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 最後には横なぐりの雨という最悪の条件となった。それでもイカルやニュウナイスズメを始め、今年も来てくれたコアジサシや旅の途中のアマツバメ、夏羽に変わり始めたハマシギの群れなど、期待していた鳥たちはちゃんと現われてくれた。終了後には、若手リーダーたちの用意してくれた会場に有志が集まって、おでんと野鳥談議を楽しんだ。

4月15日(日) 浦和市 三室地区

人 48人 天気 曇一時雨 鳥 カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ サシバ チョウゲンボウ コジュケイ キジ コチドリ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 三室地区の探鳥会73回のうち、第2位にあたる39種の出現種数で参加者を喜ばせた。特に最初にサシバが現われたときには大歓声。そのほか、ゴイサギの編隊飛行、4月には珍しいシメやカケスも登場した。三室もなかなかのものだ。

4月20~22日(金~日) 東京都 三宅島

人 20人 天気 雨後晴(21日)、雨(22日) 鳥 コアホウドリ オオミズナギドリ ハシボソミズナギドリ オーストンウミツバメ カツオドリ カワウ ウミウ ヒメウ ゴイ

サギ ダイサギ チュウサギ アイサSP
 ミサゴ トビ ノスリ コジュケイ キジ
 バン メダイチドリ ムナグロ キョウジョ
 シギ イソシギ ヤマシギ ヒレアシギS
 P トウゾクカモメ クロトウゾクカモメ
 セグロカモメ ウミネコ カンムリウミスズ
 メ カラスバト キジバト アオバト アオ
 バズク ヨタカ ヒメアマツバメ アマツバ
 メ カワセミ コゲラ ツバメ コシアカツ
 バメ イワツバメ ヒヨドリ モズ ミソサ
 ザイ コマドリ ノビタキ イソヒヨドリ
 アカコッコ ツグミ ウグイス イイジマム
 シクイ ヤマガラ シジウカラ メジロ
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシブトガ
 ラス(58種)今年も、バードアイランド三宅
 島に総勢20人で行ってきた。イイジマムシク
 イの囀りのシャワー、カラスバトの不気味な
 声、愛らしいオーストンヤマガラの顔、コマ
 ドリが巣材を運んでいる姿も。そして、何と
 いても、この島を代表するアカコッコを十分
 に楽しんだ。夜は、とれたてのカツオの刺
 身に、“亀の手”のおすまし(“亀の手”と
 は磯の甲殻類)と名物のアシタバ料理。夜の
 探鳥では、ねぐらに帰ってくるオオミズナギ
 ドリの奇妙な声も楽しめた。帰りの航路も大
 当り。コアホウドリ、オーストンウミツバメ、
 トウゾクカモメなどをすぐ近くでバッチリ見
 られた。また来年も行こうと。

4月28日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 19人 作品発表した人 5人



コサギ (町田好一郎・本庄市)

4月28日(土)『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、植村郁美、
 海老原教子、海老原美夫、角田真喜子、鈴木
 秀男、中村治、町田好一郎、吉田二三子、渡
 辺安佐子、渡辺孝章(11人)

5月6日(日) 本庄市 阪東大橋

人 14人 天気 曇時々晴 鳥 カイツブリ
 カンムリカイツブリ ゴイサギ アマサギ
 ダイサギ コサギ カルガモ コガモ ヒド
 リガモ オナガガモ ハシビロガモ トビ
 ハイタカ ノスリ キジ コチドリ イカル
 チドリ イソシギ ツバメチドリ コアジサ
 シ キジバト アマツバメ ヒバリ ツバメ
 ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
 ツグミ オオヨシキリ セッカ ホオジロ
 スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボ
 ソガラス ハシブトガラス(37種)心配して
 いた天気もなんとか持ちこたえ、チョッピリ
 晴れ間ものぞかせてくれた。ラジコン大会や
 犬の訓練などで阪東大橋近辺に鳥が少なく、
 車で下流に移動した。常連のカワセミやモズ
 が出てくれなかったが、ツバメチドリは全員
 がバッチリ。そのうえ、ナ、ナント旅の途中
 の美しいカンムリカイツブリの夏羽をもウオ
 ッチング。期待にたがわず、阪東大橋は何か
 が出ますぞ!!何かが……。

5月6日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

人 39人 天気 晴 鳥 カワウ アマサギ
 ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コ
 ガモ コチドリ シロチドリ メダイチドリ
 ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマ
 シギ オバシギ アオアシシギ キアシシギ
 オオソリハシシギ ホウロクシギ チュウシ
 ャクシギ ユリカモメ コアジサシ キジバ
 ト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
 オオヨシキリ セッカ カワラヒワ ス
 ズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブト
 ガラス(34種)五月晴の干潟は、夏羽のシギ
 ・チドリのオンパレード。望遠鏡を覗く目も
 疲れ、頭もボーっとしてくる。ときどき休憩
 をとりながら、ひたすら識別の勉強。その甲
 斐があつてか、解散後にまっかっかなコオバ
 シギ見られて大感激!!



今月号から再生紙

今月号から再生紙を使用することとしました。森林の保護の為とは言っても、『しらかばと』を再生紙にして保護できる樹木の量はたいしたことはありません。しかし、ささやかでも再生紙の販路拡大、流通過程の活性化に加わることは重要でしょう。再生紙普及のネックは、コストの問題と、見る側が慣れていないことなどです。ともかく再生紙を使用することが、それらの問題に対する解答であるといえます。

少しでも森林保護に近づきたいものです。ご協力をお願いします。

野鳥記録委員会新設

5月20日の役員会において、野鳥記録委員会の新設と、小林みどり委員長以下5人の委員が決まりました。県内初記録かそれに匹敵する野鳥の観察が報告されたとき、それを確認記録とするか参考記録とするか判断する、あるいは判断できる人や機関に問い合わせる、それらの結果にもとづき発表・記録する、県産鳥類リストを作成することを役割として、必要に応じ随時招集されます。

カスミ網問題、その後

県自然保護課野生物係と協議して、当支部と連名のリーフレットを作成しました。

カスミ網は、たとえ個人の住宅敷地内であっても、1年中いつでもどこでも違法であることなどが、具体的な法律条文を添えて簡潔に説明してあります。

カスミ網やとりもちなどで密猟している現場に出会ったときに役立ちます。もしも警察に通報する必要があるときは、これで法律的根拠を明らかにすることもできます。

ご活用ご希望のかたは、支部事務局までお申し出ください。

ご協力いただいている国会請願の署名は、本部のほうに送っています。6月5日現在全国から集まった署名は30,990名になったとのことです。粘りづよい活動が必要です。引き続きご支援をお願いします。

ありがとうございます

次の方々からご寄付をいただきました。

金崎美代子10,000円、北川慎一1,500円、
鴻巣青年会議所10,000円、高松健比古1,000円、
田中義一80円、吉本富美子10,000円
(50音順、敬称略)

会員数は

6月1日現在 1,296人です。

活動報告

- 5月11日 朝日新聞カスミ網問題取材に資料提供。5月12日掲載。
- 5月18~20日 東京ガス大宮営業所のフェア一会場で野鳥写真展示、資料配布。
- 5月20日 普及部会議。役員会議(司会:黒田佳子、関東ブロック会議・行事予定・再生紙使用・野鳥記録委員会・総会など)。
- 5月25日 本部理事会(海老原)。



今年は何かと忙しくて、まだ3回しか鳥を見に行ってません。こまったものですが、先日、悪友の誘いで、榛名山のふもとへ、朝の野鳥のコーラスを聞きに行きました。今までと違うのは、となりに約1名いること。

夜、現地についておどろいたのは、暴走族の車の多いこと、多いこと。爆音を聞きながら夜明けをむかえました。

夜行かれる方は、ご注意ください。(藤原寛治)

『しらかばと』1990年7月号(第74号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
 印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)